

<開会挨拶>

○ ASEAN 各国の代表の皆様、ASEAN、WPRO、ILO 及び JICA の代表の皆様、中華人民共和国、大韓民国代表の皆様、その他ご出席の皆様おはようございます。

○ 私は、日本の厚生労働副大臣の土屋品子です。日本と ASEAN との交流 40 周年にあたり、本会合に日本を代表して出席できることを光栄に思います。

○ はじめに、先月 8 日にフィリピンでは、台風第 30 号の被害により多くの命を失い、甚大な被害を受けられたとのこと、心からのお見舞いを申し上げます。一日も早く皆様の生活が元に戻りますようにお祈り申し上げます。

○ さて、この会合のテーマはアクティブ・エイジングです。高齢化は、日本、ASEAN 諸国、中国、韓国に共通の課題です。本年 9 月に日本の人口は、その 1 / 4 が 65 歳以上に到達しました。また、今後、ASEAN 各国の多くでは、日本と同等以上のスピードで高齢化が進行することが予測されています。世界でまれに見る速さで高齢化が進んだ日本の取組みを紹介するとともに、各国の課題、取組について情報交換し、可能であれば今後の国際協力を進められればと考えています。

<我が国の社会保障の今後の課題とアクティブ・エイジング>

- 本会合のテーマであるアクティブ・エイジングに向けて我が国では、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間、「健康寿命」の延伸に向けた取組を実施しています。
- たとえば、「健康寿命」の延伸にあたっては、予防サービスの充実等により、国民の医療・介護需要の増大をできる限り抑えつつ、より質の高い医療・介護を提供する必要があるなど、厚生労働省全体が一丸となった取組が求められます。
- また、社会保障制度の拡充が進む一方で、家庭基盤や地域コミュニティの自助、共助の機能の重要性が見直されるようになりました。
- 高齢者が尊厳を保持しつつ自立生活の支援を得て、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが一体的に提供される「地域包括ケア」の構築を進めています。

<我が国の社会保険制度の進展とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ>

- ところで、アクティブ・エイジングを達成するうえで大切なことのひとつは、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジです。
- 本年9月に安倍総理は英国の医学雑誌『ランセット』に寄稿しており、日本は国民皆保険によって、医療格差を減らし、医療

費抑制を実現したこと、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを押し進めることで、国の発展段階に応じた国内の所得再分配を促し、社会の安定にも大きく寄与すること、等について述べています。

○ 特に我が国では医療に係る社会保険制度に加えて、2000年には、40歳以上の国民全員が加入する介護保険制度が発足し、65歳以上の介護が必要な高齢者へのサービスと費用負担の仕組みが整備されています。

○ ユニバーサル・ヘルス・カバレッジについての日本の経験を世界と共有することで、世界の健康問題解決に貢献しうるものと考えています。

<最後に>

○ ASEAN各国と日本は長年の友好の歴史があり、本年2013年は日ASEAN交流40周年と節目の年を迎えました。互いに様々な分野で良好な関係を築いてまいりましたが、より良い未来へ向け、双方が今後も共に歩んでいくことが望まれます。本日から3日間にわたるこの会合が、互いの情報と経験を共有する貴重な機会となりますことを祈念いたしまして、簡単ですが、ご挨拶といたします。どうもありがとうございました。